

視点(1366)

世界一質が高い(?)日本の教育!!

日本経済新聞が「第20回未来面」で「世界一、教育の質が高い国、日本へ」というテーマの提言をしていました(日本経済新聞2010年12月27日号)。この提言の内容を以下にまとめます。

OECD学習到達調査(PISA)によると、世界の国別教育水準は次の通りです。

<読解力>

順位		国名	点数
2009年	2006年		
1位	(-)	上海	556
2位	(1位)	韓国	539
3位	(2位)	フィンランド	536
4位	(3位)	香港	533
5位	(-)	シンガポール	526
8位	(15位)	日本	520
17位	(57位)	米国	500
43位	(39位)	ロシア	459
48位	(43位)	メキシコ	425
53位	(49位)	ブラジル	412

<科学的応用力>

順位		国名	点数
2009年	2006年		
1位	(-)	上海	575
2位	(1位)	フィンランド	554
3位	(2位)	香港	549
4位	(-)	シンガポール	542
5位	(6位)	日本	539
23位	(29位)	米国	502
39位	(35位)	ロシア	478
50位	(49位)	メキシコ	416
53位	(52位)	ブラジル	405

※中国は国としての参加ではなく、上海単独

「日本の教育システムを教えて欲しい」。北欧フィンランドの学力の高さの秘密を探るために現地取材していた時、同国の教育大臣や学校の教師たちに「逆取材」を受け面食らった記憶があります。

フィンランドといえば、経済協力開発機構(OECD)の学習到達度調査で上位の常連。にもかかわらず、日本の教育に関心を寄せるのは、人口1億人を超える国で唯一、日本が上位にいるからだそうです。「教育の底上げは大国の方が難しい。どうやって学力を維持しているんだ?」。学級崩壊や教師の不祥事、基礎学力の低下などが連日報道されますが、他国から見れば依然として日本の教育水準は高く、この強みを生かさなない手はありません。

しかし、大人がいくら声を張り上げて、それだけで日本の閉塞感は打破できません。次世代を担う若者をいかに育てるか。人づくりはそのまま国づくりに直結します。

(日経新聞記事より一部抜粋)

人材育成について、松本正義氏(住友電気工業・社長)は次のように述べておられます(一橋大学記念講演の内容・日本経済新聞)。

どんなに優れた組織をつくり上げても事業を行うのは人である。企業経営の根幹はリーダーシップを持つエリートをいかに育てるかにある。

エリートとは特権階級を意味するものではない。知力、体力、信念を曲げない胆力を備え、無私の心を持って他人に尽くす人のことである。

勇敢に困難に立ち向かい、革新と一騎当千の気概を持って事業に取り組む。物事を人と違った角度から見て課題解決の道筋を発想する。こうした「気骨ある異端児」こそ、産業界のみならず現代日本に求められるエリートの姿である。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代表 六 車 秀 之